

2014年10月16日

報道関係各位

平成26年度・証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定 建設・住宅・不動産部門で『第1位』（5回連続6回目）

大東建託株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊切直美）は平成26年度「証券アナリストによる優良企業選定」の建設・住宅・不動産部門で第1位となりました。同選定は、公益社団法人日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が、企業情報開示の促進と向上を目的に実施しており、当社は今年で5回連続6回目の1位受賞となります。



●川合常務（左）

【大東建託の過去順位】

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
第1位	第3位	第2位	第1位	第1位	第1位	第1位	第1位

建設・住宅・不動産部門については、平成23年度は評価を一時休止していましたが、平成24年度は建設部門の企業を7社減らし住宅設備企業を加えるなど、対象企業を見直して再開されました。

■全ての評価項目（5分野）で1位

ディスクロージャー優良企業選定は、①経営陣のIRの姿勢②説明会などにおける情報開示③取組姿勢④コーポレート・ガバナンス関連の情報開示⑤自主情報開示といった企業のIRに対する総合力が評価されます。当社は、5分野の評価項目の全てにおいて1位となりました。

(補足) 1) ディスクロージャー優良企業選定について

業種別の評価対象について

- ・ 原則として東証一部上場株式時価総額を基準と選定している。
- ・ 建設・住宅・不動産部門では16社が選定され、本年度の順位は以下のとおり。
1位・大東建託 2位・長谷工コーポレーション 3位・LIXILグループ
4位・三菱地所 5位・大和ハウス工業 6位・三井不動産 7位・リンナイ 8位・TOTO
9位・積水ハウス 10位・清水建設 11位・大成建設 12位・大林組 13位・住友不動産
14位・東京建物 15位・東急不動産ホールディングス 16位・鹿島建設

2) 評価概要(選定結果通知資料より抜粋)

① 経営陣のIR姿勢等(1位)

経営陣が説明会に出席し、現況を伝えようとする前向きな姿勢や投資家との対話を経営に活かしていることなどが高く評価されました。また、IR部門に十分情報が集積されており、同部門の機能が充実している点も極めて高い評価を受けました。

② 説明会等(1位)

十分な説明を行っている点に加え、説明資料の開示が詳細で充実している点が高く評価されました。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点も高い評価を受けました。

③ フェアードィスクロージャー(1位)

取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けました。

④ コーポレート・ガバナンス関連(1位)

具体的な株主還元策の数値目標を明示していることが、他社と格差のある極めて高い評価を受けたほか、中長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明している点も高い評価を受けました。

⑤ 自主情報開示(1位)

期中の定量的データの開示について、月次情報等を十分に開示している点や、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点が評価されました。

※ 詳細はこちらをご覧ください。

日本証券アナリスト協会ホームページ

<http://www.saa.or.jp/disclosure/selection.html>

以上

<この件に関するお問い合わせ>

大東建託株式会社・経営企画室

TEL (03)6718-9068